

目次

口 絵
凡 例
図表目次

題 字 福生市史編さん委員会 会長 野島 茂雄
見返し図
表 航空写真 平成二年撮影
裏 航空写真 昭和二年撮影
(東京市町村自治調査会提供)

第五編 近代

第一章 村の近代のはじまり	三
---------------	---

第一節 村の姿と村民の生活	五
---------------	---

品川県の社会金制度 熊川村の社会金対応 福生村の社会金 明治前期の熊川・福生村 近世
と近代の両村の物産

第二節 秋川と多摩川流域の自由民権運動	一六
---------------------	----

西多摩の自由民権運動 秋川流域の民権への動き 自由党加盟の呼びかけ 田村半十郎と「政事
研究所」 対立する「自由新聞」の反応

第三節 農村窮乏と負債農民の動き	二六
------------------	----

周辺の村民窮乏の実状 破産した家とその善後策 明治一七年の「西多摩困民党」 平井村の請

願書	明治一八年の農村の慘状	明治一九年の福生の姿	四
第四節	土地復権運動遊説への反応		四
	宮崎民蔵と土地復権運動	福生村への遊説	
		五日市と羽村の農民たちの反応	

第二章	地域産業としての養蚕・製糸業	三
-----	----------------	---

第一節	養蚕のおこりと発展	三
-----	-----------	---

養蚕の起源 近世諸日記の養蚕記事 開港と養蚕

第二節	森田製糸工場の盛衰	五
-----	-----------	---

森田製糸工場の創立と労働事情 森田製糸工場の服務規程 労働時間と賃金 金銭の前貸と貯金、
食事と傷病 森田製糸工場の設備と生産量 森田製糸工場の繭買入先 森田製糸工場の営業成績
金融機関と生糸取引先 森田父子の事蹟と工場の終焉

第三節	玉川社合同組合	七
-----	---------	---

玉川社合同組合 玉川上水社

第四節	高崎治平と養蚕業	六
-----	----------	---

高崎治平の事蹟 農繁期休業と養蚕日記

第五節	最大手片倉製糸の進出	一〇九
-----	------------	-----

片倉製糸の熊川進出と片倉の概要 多摩製糸から片倉シルクまで

第三章 戦争と村の人々 一五

第一節 ある兵士の日清戦争体験 二五

日清戦争の記録 町田政吉の兵歴 澎湖諸島への出兵 衛生兵としての町田政吉 町田の兵営生活 外国人に対する認識 兵士と故郷の人々

第二節 福生の人々と日露戦争 三〇

村の人々の動向 軍事郵便の戦況報告 戦利品の展覧会 青年会と出征兵士送迎 「後顧の憂いなし」

第四章 大正期と昭和前期の福生と熊川 四三

第一節 行政の変化と戦争に揺れる村況 四三

福生村熊川村組合の行財政 戦争と町制への道 “福生町”の誕生

第二節 関東大震災と民衆の意識と行動 五三

関東大震災の体験 流言蜚語と自警団 デマを信じた周辺地域の状況 民衆の差別意識と朝鮮人虐殺事件

第三節 「政治青年」の誕生 五九

政友会と非政友派 西多摩郡青年民政倶楽部の誕生 田中内閣打倒の「趣意書」

第四節 立ち上る小作人たち 六三

三多摩の小作人の動き	熊川村の小作争議	大恐慌後の福生の騒動	熊川村の第三次の小作争議
熊川村の地主の反対の声			

第五節 福生と熊川に敷設された鉄路

1 青梅鉄道の開通	一七四
-----------	-----

甲武鉄道路線延長の請願	青梅電気鉄道と青梅線
-------------	------------

2 五日市鉄道の歴史	一八三
------------	-----

五日市鉄道会社の設立	路線の決定	熊川駅の設置	新ホームできる
------------	-------	--------	---------

3 八高線紆余曲折	一八六
-----------	-----

八高線の誕生	曲げられた線路	電化なるか八高線
--------	---------	----------

第六節 福生村青年団の展開―その「進取性」と「地域性」―

1 青年組織の変化	一九〇
-----------	-----

志茂青年会の設立	行政村を単位とした青年会の発会	行政の指導にゆれる青年団活動	青年会
と処女会から青年団へ	戦時色に染まる青年団		

2 青年団員の自覚	一九三
-----------	-----

予算をめぐる本団と支部の確執	団のあり方をめぐる団長の苦悩	女子部長からみたあるべき姿
----------------	----------------	---------------

3 青年団の維持	一九八
----------	-----

活動費捻出に知恵を絞る	先駆的な桑園経営
-------------	----------

4	青年会の事業	三三
---	--------	----

時代とともに変化する事業内容	皇室と青年団員の意識	日常活動の中から発案され貯金
----------------	------------	----------------

第五章	地域の生活と多摩川・玉川上水	三九
-----	----------------	----

第一節	多摩川における漁業権の獲得	三九
-----	---------------	----

漁場の区割	乱獲を防ぐため組合制の導入	政府高官も遊んだ川魚漁	観光漁業の花形「寄せ川」
伝統漁法の粋「瀬張り網漁」	禁じられた築漁		

第二節	南北田園と用水	三〇
-----	---------	----

田村家の酒造創業と水車	田村分水の完成と屋敷内水車
-------------	---------------

第三節	福生における渡し場の変遷	三四
-----	--------------	----

福生の渡しの繁栄と衰退	牛浜の渡しから森山の渡しへ	熊川・小川両村の渡しを巡る確執
-------------	---------------	-----------------

第四節	玉川上水分水計画	三五
-----	----------	----

弥八郎の分水誘致運動の展開	田村分水を熊川へ	拝島分水の水路変換のもくろみ	まぼろしの
羽村川崎分水	多摩村の内紛と分水問題	羽村川崎分水の転用計画	

熊川分水の成立	二七〇
---------	-----

羽村川崎分水の買入れ	砂川分水の熊川村への売り込み	総経費と分担金	熊川分水規定書
------------	----------------	---------	---------

第五節	玉川上水通船事業の盛衰	二八三
-----	-------------	-----

第二玉川上水の開削計画 幕末期上水通船の動き 通船への妨害 日記に見る上水船運の利用
東京湾への乗入れ計画 通船事業の廃止

第六章 戦争と民衆——昭和編—— 二九六

第一節 戦争と青年 二九六

戦争協力団体郡内に簇生 「アジア・太平洋戦争」と暗黒時代への序幕 「村の為」と「お国の為」 徴兵検査成績と入隊 陸軍記念日と戦死者の慰霊

第二節 戦争と女性 三〇五

愛国婦人会と戦争協力 国防婦人会と戦争協力 「時代の空気」と女子青年団 女子青年団の臨時大会 愛国防護団と「聖戦一周年」 農村の花嫁と女子青年団 女子勤労挺身隊の結成

第三節 子どもと戦争 三七

「少国民」 「国防色」の制服を着た熊川小児童 乃木少年団と愛国少女団 小学校と戦争協力 軍国少年と軍国女子

第四節 一般民衆と戦争 三七

「防空日誌」と警戒・空襲警報 福生・熊川の空襲被害 戦争協力態勢の実態 八月一三日の熊川の爆撃

第七章 戦争と民衆——戦後編—— 三四〇

第一節 戦後地域文化運動と福生の青年	三〇
--------------------	----

戦後地域文化運動と三多摩の『魂』 福生青年団再結成と『理想の下に』 青年団ニュースと活動の記録 『多摩の礎』と戦争の反省 青年団の読書会

第二節 戦後地域文化運動と熊川の青年	三四
--------------------	----

熊川青年団と『ふるさと』 『ふっさ』と生活文化創造 熊川青年団と地域活動

第三節 『あかざ』にみる文学と青年の苦悩	三六
----------------------	----

「あかざ社」誕生と地域社会の民主化 あかざ会員の三つのグループ 一年半つづいた会誌『あかざ』の発行 戦争と文学の原点 「あかざ」の停滞と終焉

第四節 「学ぶ場」の自主開設と地域文化の開花	三七
------------------------	----

西多摩自由懇話会の設立 西多摩夏期大学の開設 地域文化の開花とそろばん会の志

第八章 行政管轄区域の変遷	三八
---------------	----

第一節 現市域の形成	三八
------------	----

幕末維新期の福生と村連合 品川県・韭山県への分属 神奈川県移管と五か村連合形成 多摩村の成立と分裂 福生村熊川村組合の成立

第二節 東京府移管問題と西多摩	三九
-----------------	----

境域変更法律案の提出 田村・指田ら主要人物の動き 移管推進運動とその人脈 移管推進の背景 境域変更法律案の通過とその後

第三節 都制編入を求めた西多摩	四〇二
-----------------	-----

都制案の登場 神奈川県復帰か「武蔵県」か 「多摩県」か都制編入か 福生村熊川村組合の陳情書 運動の中心となった西多摩 観光開発と東京緑地計画 三多摩編入都制の実現

第四節 町制の施行	四一五
-----------	-----

地域開発への期待と合併問題 立川都市計画と福生 合併・町制施行の再浮上 村政の停止から福生町の成立へ

第六編 現代

第一章 概 観	四二五
---------	-----

第二章 東京の発展と福生	四二九
--------------	-----

第一節 日本と東京の人口	四二九
--------------	-----

日本の人口推移 東京都の人口 第一回国勢調査以後の推移

第二節 福生市の人口変動	四三三
--------------	-----

江戸時代から終戦まで 終戦後の推移 昭和二五年以後 新しい町会の誕生と人口の推移 周辺市との比較 昭和五八年度の人口移動 年齢別人口の周辺市との比較 外国人

第三章 福生の行政の移りかわり……………四五一

第一節 戦後の基地の町の行政（昭和二〇年代）……………四五一

1 戦後の空白の時期……………四五二

旧陸軍の物資、食用油の配給 米軍多摩飛行場へ進駐 町営バザーの開催

2 横田基地と町の行政……………四五四

中学校敷地は砂利採掘跡地 幽霊人口問題

3 戦後初期の町の行政（昭和二十一年から二六年まで）……………四五七

民主主義と岸町長の誕生 志茂地区区画整理の完成 自治体警察の設置と廃止 失業救済事業

昭和二〇年代の町行政の動き

4 米軍将兵の立入禁止問題と風紀取締条例の制定……………四七二

米軍将兵と風紀問題 町の浄化対策 風紀取締条例の制定 混血児収容施設「福生ホーム」

第二節 都市化への促進……………四八〇

1 町づくりへの歩み……………四八〇

昭和二七、八年の町の行政 ハウスブームおこる 熊川汚物処理場の建設 栄通りの貫通 新

しい街づくりへの模索 福生駅前広場の築造

2 福生都市計画の独立と市街地開発区域の指定……………四八六

首都圏整備法と市街地開発区域 福生都市計画案まとめ

3	新都市建設公社と区画整理事業……………	四九〇
	新都市建設公社の設立	都市下水路組合とその事業
	理事業	加美平地区区画整理事業
		武蔵野台区画整
4	その他の行政……………	五〇〇
	福生町営と場の開設	西多摩自治会館の建設
5	町の財政危機と地財法の適用……………	五〇三
	瀬古町長の積極行政	生活改善センターと石柱
	赤字財政と石川町長	地方財政再建法の適用
	二か年で赤字解消	町営プールの建設
第三節	福生市の誕生と健康で文化的な街づくり実現へ……………	五〇四
1	三万市制実現運動の展開……………	五〇四
	福生町で三万市制実現全国大会	期成会の運動
		福生市の誕生
2	市としての街づくり……………	五二〇
	福祉会館の建設	多摩河原土地区画整理事業
	いて	市民体育館の建設
		基本構想の策定
3	福祉行政の充実……………	五二九
	社会福祉の歩み	れんげ園の設立
		社会福祉協議会の活動
		福生市高齢者事業団の活躍
		保育
4	生活環境の整備……………	五三三
		園の充実

西多摩衛生組合の設立と活動 都市下水路施設の整備 公共下水道の整備 上水道事業の一元化
福生消防署の設置

5 関東空軍施設整理統合計画（KPCP）……………五四〇

関東計画とは 関東計画と行政や議会の動き

6 基地周辺整備法の改定とその後の行政……………五四四

整備法改正と石川市長 市民会館の建設 法改正後の建設行政の進展 中央図書館の建設

7 市民憲章・市の木・市の花……………五五一

市民憲章の制定 福生市の歌の誕生 市の木・市の花・市の鳥 ふっさ十景

第四章 福生の農業……………五五七

第一節 戦前の農業……………五五七

飛行場立地以前 飛行場の立地と福生

第二節 農地改革……………五六五

農地改革の経過 福生町における農地改革

第三節 農地改革以後の農業……………五七一

産業別人口構成 経営耕地面積別農家数 専、兼業別農家数 農地転用の状況 作物種類の移
りかわり 最近の農業

第四節 農協と青果市場	五九七
-------------	-----

農協前史	福生町農業協同組合の発足	西多摩農業協同組合	福生青果株式会社
------	--------------	-----------	----------

第五章 福生の商工業	六三三
------------	-----

第一節 商 業	六三三
---------	-----

駅前商店街の形成	だるま市	共同井戸	馬力輸送	明治、大正時代の商業	商店街の変質
七タまつり	福生町商店街協同組合	昭和三〇年代の商店街	大規模小売店の進出	市内の商店数	周辺地域との比較
町会別にみた商店分布					

福生市商工会	六三四
--------	-----

商工会設立前史	商工会の概況	福生市商工会
---------	--------	--------

第二節 工 業	六三七
---------	-----

明治時代の工業	大正のころ	昭和から平成へ	福生屠殺場	周辺市との比較	工場の推移
種類別にみた工業の消長	福生の酒造業	武蔵野台工業団地			

第六章 市民生活	六六三
----------	-----

第一節 交通・通信・消防	六六三
--------------	-----

自動車交通	市内の自動車	青梅線	八高線	五日市線	乗降客の移りかわり	郵便
電話	消防					

第二節 横田基地	六八二
----------	-----

概観	現況	基地と市民生活	基地周辺の生活
----	----	---------	---------

第七編 教育・文化

第一章 学校教育	六九五
----------	-----

第一節 学制前の教育	六九五
------------	-----

1 筆子塔	六九五
-------	-----

2 昌平・開成両校への入学案内	六九六
-----------------	-----

3 学校創設の動き	六九六
-----------	-----

第二節 草創期の学校	六九八
------------	-----

1 学舎創設	六九八
--------	-----

学校創立の趣意	学制頒布諸規則	学舎創立
---------	---------	------

2 連合村多摩村時代	六九九
------------	-----

学区	学校建築	学校費予算
----	------	-------

3 子どもと教育	七〇二
----------	-----

教育内容	卒業証書および学習
------	-----------

第三節 学校体制の整備

七〇六

1 教育勅語

七〇六

教育勅語が發布されるまで

東多摩、熊川小学校に勅語下賜

祝日大祭日の歌詞および楽譜

勅

語と教科書

2 熊川小学校の独立と東多摩小学校

七〇八

熊川小学校支校より独立

東多摩小学校に高等科併置

熊川小学校に高等科併置

小学校令第三

六条の手続き 学校負担

3 規定規則の整備

七一一

小学校休業日決まる

小学校始業、終業時限決まる

小学校参観規則決まる

4 校舎建築

七二三

駅前の学校 階段教室

5 校名変更

七二五

福生尋常高等小学校

6 子どもと教育

七二六

学校区と教育大要

大試験

学校医委嘱

欠席、欠課、就学猶予

運動会と遠足

当時の教

育内容 日清、日露戦争と軍歌

第四節 大正期の学校

七二九

1 補習学校と青年訓練所

七三〇

2	学級編成状況……………	七二
	補習学校 実業補習教育へのすすめ 青年訓練所	
	大正七年の学級編成	
3	郷土教育……………	七三
	郷土教育資料 教授方法	
4	校舎建築……………	七四
	熊川小学校の移転建築 建築見積り 福生小学校の二階建校舎建築	
5	子どもと教育……………	七六
	電灯がついた 校舎移転のころ 体操、音楽指導	
第五節 昭和前期の学校（終戦まで）…………… 七八		
	教育実践の標語	
1	児童の増加と学級編成……………	七九
	福生町成立頃の教育環境 学校の増築	
2	青年学校……………	八〇
	青年学校の発足	
3	二宮金次郎の銅像……………	八一
	二宮金次郎の銅像除幕式	

4	国民学校……………	七三三
	国民学校の発足 義務就学期間 就学の奨励 青少年団の誕生 各種規定の整備 防衛隊駐屯 戦争末期の教育関係法令など	
5	子どもと教育……………	七三六
	児童文集 繭価低落と児童への影響 たばこ銀紙蒐集 夏休み中の行事 色刷りの教科書 農繁期の休業短縮 ラッパ鼓隊 学校日誌の中の子ども 戦時下の学童たち	
第六節 終戦と教育…………… 七四三		
1	民主教育への展望……………	七四三
	輿論指導に関する件 新日本建設の基本方針 国民学校長会議で都長官訓示 国民学校長会議の指示事項 教科書の回収と墨ぬり 戦後の学級編成 御真影奉還	
2	六・三制の発足……………	七五〇
	校名の変更 福生中学校の創立 新制中学校の校舎建設 新校舎落成式 新しい教育の目的 新しい教科、社会科の誕生 視聴覚教育の発足 学校給食の発足 学校図書館の発足 新しい教科書	
3	児童数の増加と福生第三・第四小学校の開設……………	七六〇
	二部授業 新校舎の建設 第三小学校の開設 第四小学校の開設	
4	道德教育の新設……………	七六二
5	子どもと教育……………	七六三

基地の町福生の子ども 多摩川に水遊び場をつくる 臨海学校

第七節 教育委員会……………七六

1 教育委員会委員選挙……………七七

公選教育委員 法改正

2 学校教育に関する主な教育委員会規則……………七八

3 児童数の増加と学校施設設備の充実……………七九

児童、生徒の増加 学校の建設 施設の充実

4 福生市育英資金……………七五

育英会の運営 育英資金の支給状況

5 教育委員会事務局組織……………七七

昭和三八年の組織 学校教育部組織と分掌

第八節 現在の学校……………六二

1 公立小・中学校……………六一

福生第一小学校 福生第二小学校 福生第三小学校 福生第四小学校 福生第五小学校 福

生第六小学校 福生第七小学校

福生第一中学校 福生第二中学校 福生第三中学校

学校五日制の実施 新しい教科、生活科

2	心障学級……………	七九七
	心障学級の設置……………	
3	愛鳥活動……………	七九八
4	高等学校……………	七九九
	東京都立多摩高等学校福生分校……………	
	東京都立多摩工業高等学校……………	
	東京都立福生高等学校……………	
5	幼児教育……………	八〇二
6	子どもと教育……………	八〇三
	児童、生徒数の減少傾向……………	
	学習塾……………	
	子どもと遊び……………	
	第二章 社会教育……………	八〇六
	第一節 戦前の社会教育……………	八〇六
	戦前の社会教育政策……………	
	戦前の福生の社会教育……………	
	戦前のスポーツ活動……………	
	第二節 戦後の社会教育……………	八二三
1	復興期の社会教育（昭和二〇～二七年）……………	八三三
	戦後の社会教育政策……………	
	占領下の社会教育行政……………	
	戦後青年団の発足……………	
	文化サークルの誕生……………	
	スポーツ活動……………	
2	学級活動と社会教育団体（昭和二八～三六年）……………	八四四
	PTA……………	
	婦人会……………	

行政による学級活動	青年学級	婦人学級	民間での社会教育活動	八三〇			
3 福生における社会教育行政の確立（昭和三七～四七年）	社会教育行政の整備	新しい学習サークル	施設要求への取り組み	八三〇			
4 福生市の社会教育施設の拡充（昭和四八～五五年）	社会教育基本構想	市民の公民館づくりの運動		八三六			
第三節 社会教育施設と市民による生涯学習	社会教育行政	公民館活動	図書館活動	郷土資料室	社会体育	八三六	
第三章 文化財	文化財の保護と活用	文化財保護条例の制定	文化財専門委員	条例の改正と文化財総合調査	文化財総合調査	文	八四一
第一節 文化財の保護と活用	文化財の指定と登録	都指定有形文化財（建造物）	歴史的環境と自然の保護	郷土資料室			八四一
第八編 自然環境	第一章 福生の地質と地形	第一節 わが街「福生」					八五〇

第二節 福生の自然環境 八五

私たちの生活環境 数理地理学的位置

第三節 福生の地質 八六

福生の土台をつくる岩石 加住レキ層 立川レキ層 立川ローム層 拝島レキ層 低位段丘レキ層 現在の多摩川河床レキ

第四節 福生の地形 八七

台地と段丘 多摩川河床（河原）と氾濫原（低地） 福生の基盤となった古地形 立川段丘の地形 拝島段丘の地形 天ヶ瀬段丘の地形 千ヶ瀬段丘の地形 地形をよく表わす旧版地形図 地下水の湧出

第五節 福生の自然史 八八

加住レキ層の年代 立川面の年代 拝島面の年代 低位段丘地形面の年代

第六節 福生の気象 八四

化石が語る古気象 現代の気象

第二章 福生の生物 八七

第一節 福生の植物 八七

古代福生の植物相 緑地退行の歩み 現存植物の種類 林の分布と地形 林地とその様相

第二節

植生と外来植物 水辺の植物 中州・砂礫地の植物 草地の植物 林床の植物 野草の興亡
 福生の鳥類……………

九〇六

第三節

福生の昆虫類……………
 自然の移り変わり 野鳥の変化 都市開発の影響 種類の変化 今までに観察された主な野鳥
 冬鳥から夏鳥への移り変わり 種類数の季節による増減 身近な鳥の数の変化……………

九二二

1 市街地の昆虫……………

九三三

学校の校庭に生息する昆虫

学校のプールや池の水生昆虫

樹木・農耕地の残る旧集落の昆虫

2 林や林縁の昆虫……………

九三六

夏の風物詩せみしぐれ

秋の風情を誘う鳴く虫たち

3 多摩川や草はらの昆虫……………

九三四

第四節

福生の水生生物……………

九三八

1 水生昆虫（底生生物）……………

九三八

2 付着藻類……………

九三八

3 魚類……………

九四二

4 水生植物……………

九四三

5 トンボ類……………

九四四

6 玉川上水の昆虫……………

九四九

結 び	九三
-----	----

福生市史年表	九七
--------	----

関係者名簿	九九
-------	----